

かしわ

様々な子どもへの指導・支援 — 同行二人という視点 —

校長 北村 耕一

本校は聴覚障がい特別支援学校です。全国の中核市では唯一のろう学校で、市立のろう学校が設置されているのは、神奈川県だけです。（神奈川県には、神奈川県立、横浜市立、川崎市立、横須賀市立の4つのろう学校があります）

幼稚部、小学部、中学部、高等部の4つの学部があり、乳幼児教育相談、ことばやきこえの教室（通級指導教室）もあります。それぞれの担当教員が子ども個々の発達に応じた指導・支援を行っています。

また、横須賀市の特別支援学校として地域のセクター的機能を果たすために、聴覚障がい教育に関する地域支援（教職員対象の聴覚障がい理解研修会＝8.21PM横須賀市教育研究所で実施。子どものためのきこえとことばの相談会＝H30.1.28終日横須賀市総合福祉会館で実施）や相談支援活動を行っています。

先日、自宅で資料の整理を行っていたところ、20年前の「カンゼン」研究会の文書を見つけました。当時、横須賀共済病院小児科心理相談室に勤務されていた田中真樹子先生が講師をされた研修の文書でした。

タイトルは「子供が育つ環境とは — 同行二人という援助のあり方 — 」というものでした。

文書の内容は不登校の親子に関わったケースを検討するというものでしたが、田中先生は「同行二人」で、①安全の保証、②反応の保証、③新しい



No. 7 平成29年6月13日 ジャガイモ&アジサイの花

体験を得る保証、④認知体験の保証 を行ったと書かれていました。

「同行二人」とは、辞書によると「四国巡礼の遍路などがその被る笠に書きつける語。弘法大師と常にともにあるという意」だそうです。田中先生は「いつも寄り添って支援する」という意味で使用されていたと私は記憶しています。

「寄り添って支援する」ということは、「言うは易く、行うは難し」なことだと思います。しかし、子どもを指導・支援するうえでは大切なことだと思います。

子どもを指導・支援するのは、田中先生のような専門機関の方もいれば、子どもの保護者・家族、私たちのような学校関係者、地域の方々がたくさんいらっしゃいます。従って、指導・支援も多種多様だと思います。しかし、前述したように「寄り添う」ことが基盤になると思います。

20年前の資料ですが、大切なことを思い出させてくれました。

今年度のことばやきこえの教室の様子

総括教諭 石崎 龍介

今年度、私たちの教室にとっては、大きな変化の年となります。

これまで、平成18年に8名の通級生で開設した本教室にとって、毎年少しずつ児童・生徒が増えてきて、50名になったのが平成28年度でした。

これまで、入級児童・生徒数の増加に対応して



小学部の交通安全教室

教諭 辻 祐太

全校教職員の手を借り教室移動をして教室数を増やしてきました。また、担当教員も4名に増やして頂いて、現在の4教室+プレイルームの形になりました。今年度については、これまで望んでいた担当者の世代交代も実現し、13名の新入級児童・生徒を含め49名の通級生でスタートしたところです。

ここまで来るのに、新しく来られた子どもたちを受け入れるために、4月には新入級保護者会、子どもとの初回面接とそれを受けて保護者との面接、その結果を実態表と個別指導計画にまとめました。



そして2日間のケース会と、保護者希望を生かした担当者時間割り素案を検討し、5月9日の全体保護者会で皆さんの合意を得て決定しました。この間に、継続の児童・生徒には新年度の様子を聞き取る指導日を入れ、5月10日から新担当による新しい時間割での指導が始まりました。

今年は特に、保護者の皆さんの理解も浸透して、はじめから朝の1時間目に指導時間を入れられる方が多くなりました。



また昨年度、10周年記念誌の原稿を関係者に執筆していただき、これから印刷・製本されるところです。歴代の校長先生、先輩方本人や保護者も交えて、在籍数の統計や資料などを顧みながら、本通級の役割・機能を改めて意識化しているところです。

これからも、通級の子どもたち保護者や関係者と関わり、在籍校で本来の力を十分に発揮出来るよう、その役割を果たしていきたいと思っています。

5月11日に小学部の交通安全教室が行われました。主な実施内容は「自転車の安全な乗り方」

「正しい横断歩道の渡り方」の2つです。小学部の児童の半数以上が日常生活の中で自転車に乗るということで、どの児童もしっかりと話を聞くことが出来ました。

自転車の安全な乗り方の話では、指導員の方が「自転車に乗るときは後ろから車がきていないかしっかり確認しましょう」と言うと、子どもたちは、後ろを確認しながら、自転車に乗るイメージをしている様子が見られました。また、[止まれ]の標識を見ると、「知ってる!」という声がたくさん聞こえてきました。しかし、止まれば車だけではなく、自転車や歩行者も止まるんだよ、と指導員の方が説明すると「知らなかった」という声も聞こえてきました。

正しい横断歩道の渡り方では、指導員のモデルを真似しながら、全員がしっかりと練習することが出来ました。左右をしっかりと見て、手を上げて横断歩道を渡っている様子が見られました。信号が赤になったら止まるのはもちろんですが、青だとしても、しっかりと安全を確認して渡ってほしいと思います。



今回の交通安全教室も、子どもたちにとって自分の安全を守るために大切な勉強だったと思います。今回の講習を忘れずに毎日元気に登校してほしいと感じました。